

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 教授

氏名 伊藤潤哉

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

動物繁殖学：動物繁殖学は、動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。必修科目であることから、動物、とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて基礎的な部分を身に着けるよう講義を行った。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物分子生殖科学：動物分子生殖科学は、動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学に引き続き、動物、とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて「分子」をターゲットとして、動物繁殖学の内容についてより深く理解できるように講義を行った。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物受精卵移植論：動物受精卵移植論は、動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学・動物分子生殖科学に引き続き、動物、とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて「受精卵移植」をターゲットとして、動物繁殖学・動物分子生殖科学の内容についてより深く理解できるように講義を行った。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物生殖制御論：動物生殖制御論は、動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学・動物分子生殖科学・動物受精卵移植論に引き続き、動物、とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや、最先端の生殖制御技術を紹介することで、これまで学んできた動物繁殖学・動物分子生殖科学・動物受精卵移植論の内容についてより深く理解できるように講義を行った。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物繁殖学実習・家畜人工授精特別実習：繁殖学・生殖学は動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学・動物分子生殖科学等で学んだ動物、とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて、実習を通して理解を深める。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めた実習を行っている。

専門ゼミ・科学の伝達・卒業論文：文献紹介やprogress reportを通して、双方向の演習を行うことを心掛けている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物繁殖学	動物応用科学科	必修	2	168
動物分子生殖科学	動物応用科学科	選択	3	73
動物受精卵移植論	動物応用科学科	選択	3	60
動物生殖制御論	動物応用科学科	選択	4	35
生殖生理・不妊症学	臨床検査技術学科	選択	4	32
動物繁殖学実習	動物応用科学科	選択	3	53
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選択	3	50
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	2
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	4	1
地球共生論	獣医学科	必修	1	131
地球共生論	獣医保健看護学科	必修	1	78
地球共生論	動物応用科学科	必修	1	140
地球共生論	臨床検査技術学科	必修	1	89
地球共生論	食品生命科学科	必修	1	47
地球共生論	環境科学科	必修	1	76

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

あらかじめ図を挿入したスライドを用い、iPadに板書する形式で講義を行っている。学生自身は講義を聞きながら、タブレットあるいはあらかじめ印刷した紙に記入する形で、理解を深めていく。講義中は「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果をだせるような人材育成を目指す。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

2とも関連するがあらかじめ図を挿入したスライドを用い、iPadに板書する形式で講義を行っている。学生自身は講義を聞きながら、タブレットあるいはあらかじめ印刷した紙に記入する形で、理解を深めていく。特に高校時には生物の科目はあるものの哺乳類の生殖についてはほとんど取り扱っておらず、もともと学生の興味も薄い。そこで講義中は「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果をだせるような人材育成を目指す。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業内で口頭および授業後のAzamoodleで学生に質問や疑問を投げかけ、学生自身に考えてもらい、いくつかの考えを示してもらった後、授業内で解説している。

(2) ICTの教育活用

有

タブレットの画面共有や動画などの機能を行い、学生の理解を上げるようにしている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

授業内で口頭および授業後のAzamoodleで学生に質問や疑問を投げかけ、学生自身に考えてもらい、いくつかの考えを示してもらった後、授業内で解説している。タブレットの画面共有や動画などの機能を行い、学生の理解を上げるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

A

Azamoodleの質疑応答や授業感想により、学生の理解度を把握し、さらなる解説・説明を加えるなどしている。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

授業内で口頭および授業後のAzamoodleで学生に質問や疑問を投げかけ、自分で考えて答えるよう促している。

（４）学生とのコミュニケーション

A

Azamoodleの質疑応答や授業感想により、学生の理解度を把握し、さらなる解説・説明を加えるなどしている。

（５）双方向授業への工夫

A

授業内の質疑応答や授業感想により、学生の理解度を把握し、さらなる解説・説明を加えるなどしている。

５．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

iPadの文字を見やすくした。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

特段悪い評価は来っていない。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

引き続き、板書の文字を読みやすいように心がける

６．学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

引き続き学生の理解度を確認めながら理解度を上げる説明や興味のある話題などを提供していく

**(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック**

引き続き学生の理解度を確かめながら理解度を上げる説明や興味のある話題などを提供していく

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学内のFDには参加し、よりより授業を行うための取り組みを取り入れるよう心掛けた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

より多くの学生が、生殖学や繁殖学に興味を持ち、また本来身に着けるべき知識や技術が全員に身につくような授業を心掛けたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

特になし